

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

3面

**施設再編とDX化で
米穀事業を業務改革**
(米穀部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

4面

乗用田植機で水稻の追肥を省力化
(耕種総合対策部)



配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://forms.cloud.microsoft/r/uvWgU72VtZ>

全日本中学生カーリング選手権大会に協賛

「もぐもぐブース」を設置し「ニッポンの食」で応援



大会終了後に選手と関係者で記念撮影



優勝した「帯広ジュニア」

もぐもぐブースの様子

決勝大会の様子は、長野五輪に出場した大澤明美 JCA 理事の解説とともに「日刊スポーツ」YouTube アカウントで配信予定です。

全農は会場に「もぐもぐブース」を設置。出場選手に試合前後でのエネルギー補給用の食材を提供し、選手と大会を「ニッポンの食」で応援しました。

表彰式では、新潟県本部の高野洋本部長が1〜3位のチームに、新潟県産米「新之助」と「にいがた和牛」を副賞として贈呈しました。

アミックスダブルスカーリング選手権大会2026金メダリストが、自身の体験に基づいた日常や大会期間中の食事内容、トレーニングなどについて紹介。その後、管理栄養士によるスポーツ栄養教室を実施しました。

全農は7月24〜26日、新潟県新潟市のMGC三菱ガス化学アイスアリーナで開催された「第5回全農全日本中学生カーリング選手権大会」に特別協賛しました。

岡山県産くだものトップセールスを実施

「アレキ」140周年、東京・大阪・岡山の市場でPR



東京市場であいさつする伊原木県知事



市場実需者への試食の配布(岡山市場)



「アレキ」

140周年のロゴ

生産量は限られていますが、岡山県本部では140周年を記念したロゴや販促資材を作成し、更なるPRに取り組んでいます。岡山県本部は「アレキ」だけでなく、「くだもの王国」が誇る桃・ブドウなど、県産農畜産物の積極的なPRに取り組めます。

東京市場には伊原木県知事も出席し、「岡山は果実を作りやすい天候で、高品質な果実を作ろうという生産者が多い。岡山のかだものを更に広めたい」とあいさつしました。

岡山県本部は7月3日、東京都と大阪府、岡山県の主要市場3カ所、岡山県産くだものトップセールスを実施しました。桃、ブドウの本格出荷、夏ギフト商戦のスタートに合わせ、県内JAと岡山県の共催で毎年実施しており、各団体のトップがPRしました。

各市場ではブドウと白桃を配布。ブドウは「マスカット・オブ・アレキサンドリア」(以下、アレキ)と「シャインマスカット」(晴王)「ピオーネ」の粒セット、白桃は1人1玉を準備し、大阪市場では約200人、東京市場、岡山市場ではそれぞれ約100人の市場実需者に配布しました。

今年は、「アレキ」が岡山県で栽培されてから140周年という節目の年です。栽培には高い技術を要することから



JAの業務効率化に向けDXと施設再編について
意見を交わした研修会

施設再編とDX化で 米穀事業を業務改革

全国JA関係者がJA北びわこ研修会で成果共有

全農は6月25日、滋賀県のJA北びわこでWEB出荷契約・検査システムと施設再編をテーマに研修会を開催し、北海道、宮城、茨城、三重、滋賀などから17団体53人が参加しました。

【米穀部】

機能再配置で稼働率向上

第一部はびわカンントリーエレベーター（CE）で、JA北び

わこが進める共同乾燥調製施設の再編を視察しました。同JAでは、担い手への農地集積に伴う荷受量の減少や施設の老朽化、財務制約などの課題に対応するため、「施設削減」ではなく「機能再配置」を基本に再編を進めています。

乾燥調製機能を周辺施設へ集約し、高月CEは乾燥機能を廃止したうえで、生粉の一時保管・輸送を担う中継基地として活用しています。これにより、農家の持ち込み利便性

を維持しながら、既存施設の稼働率向上と持続可能な施設運営につなげています。

システムを導入し効率化

第二部は同JAのWEB出荷契約・検査システムの導入事例を中心に説明しました。

従来は、検査現場での手書き台帳作成に加え、支店・本店での入力、照合、FAX報告など複数工程があり、現場・事務双方に大きな負担が生じていました。導入後は、検査現場でタブレット入力によりデータを確定し、県システムとの連携によって台帳作成や転記作業を不要としました。入庫処理

までの一連の業務を自動化し、出荷契約内容や検査結果を現場で即時に確認できる環境を整えました。

その結果、生産者への迅速な対応や在庫管理の効率化、県への集計報告作業の削減など、業務全体の効率化につながっています。質疑応答では、スマートフォン等に不慣れな生産者にJA職員が代理人力を行う運用も紹介され、円滑な導入を進める実践的な手法として共有しました。参加者からは、施設再編とDXを一体的に推進する事例として高い関心が寄せられました。

全農は、今回共有された成果や知見を踏まえ、JAの業務効率化と負担軽減に資するシステム開発・展開を進め、JAグループ全体のDX推進に取り組んでいきます。

WEB出荷契約・検査システムについて説明



WEBシステム導入による 派生的効果

従来 vs 導入後の業務フロー比較

導入による派生的効果

- 生産者の出荷契約内容をその場で確認可能。
- 契約残数を即時に把握でき、生産者への的確な出荷指導が実現。
- 当日の検査数量を自動計算し即時確認できるため、在庫管理が大幅に効率化。
- 検査結果を組合員にメール送信、品質向上に貢献。

施設再編まとめ図

地域農業を未来につなぐ共同乾燥調製施設運営へ

- 1 荷受量構造の変化を踏まえた施設再設計
将来の荷受量を見通して中長期計画を策定
- 2 老朽化施設への投資集中
施設の選択と機能集約で投資対象を明確化
- 3 JA財務制約下での補助事業活用
10年計画を3年前倒しし更新を加速
- 4 地域農業を支える機能の維持
将来にわたり継続利用できる共同施設運営へ

今こそ行動を：地域農業を未来につなぐJAの役割

施設再編イメージ図（機能集約）

施設を減らすのではなく、機能を再配置する

再編前	再編後
浅井CE	浅井CE
びわCE	びわCE
湖北西部RC	湖北西部RC
高月CE	高月CE中継基地
永原CE	永原CE

中継基地の役割

農家から荷受した生粉をフレコンバッグのまま一時保管し、CE・RCへ移送する物流拠点。

再編の考え方

高月CEの乾燥調製機能は廃止し、周辺施設へ集約。利便性を残しながら効率化。

乗用田植機で

水稻の追肥を省力化

高温期の作業負担軽減へ

夏の暑い時期に行う水稻の追肥は、生産者にとって負担の大きい作業です。全農は井関農機株式会社と共同で、少ない作業負担で効率良くかつ高精度に肥料を散布する新たな追肥技術の開発を進めています。

耕種総合対策部



圃場試験で使用した乗用田植機
(井関農機(株)PRJ8シリーズD型FS仕様)

では肥料の補充やバッテリーの交換に時間がかかります。また、これらの農業機械を用いた散布方式では、田植え同時のような高精度散布はできません。高温化が進む中、分施肥体系では、生産者の作業負担を軽減しつつ肥料を効率良くかつ高精度に散布できる農業機械が求められています。

そこで全農は、井関農機株式会社と共同で乗用田植機（以下、田植機）を活用した新しい追肥技術を開発しています。田植機に備わる側条施肥機は、走行速度に合わせて肥料の繰出量を自動で調節できるため、高精度な散布が期待されます。機体試作では、泥の巻き上げを抑えるため田植機のタイヤを

乗用管理機用のタイヤに交換しました。また、肥料詰まりを防止するため施肥ホースを短くしました。さらに、苗のせ台を上げた状態で、植付け爪を停止することで、幼穂形成期の水稻^{ほしやう}圃場でも稲体への影響を軽減して追肥できるように田植機を設定しました。

圃場試験の結果では、田植機が直進した場所で水稻を踏み倒すことはほとんど確認されませんでした。また、栽培管理システム「xarvio® FIELD MANAGER」を用いて圃場の生育ムラに基づいて作成した可変施肥マップと田植機を連動させ、

田植機が生育ムラに応じて散布量を変えながら追肥できました。これにより、圃場の生育ムラを改善する効果も確認されました。

一方、今回使用した8条植え田植機の散布幅は2・4畝であったため作業行程数と旋回回数が田植え作業と同等となり、高温下での作業時間に課題がありました。今後、井関農機株式会社と全農は散布幅の拡大や作業経路を調整するなど、より効率的に追肥するための改善に取り組むなど引き続き技術開発を進めていきます。本内容は「グリーンレポート2026年7月号」にも掲載しております。併せてご覧ください。



グリーンレポートは
こちらから
ご覧いただけます



圃場試験における測定の様子（測定調査のため複数名乗車していますが、農作業安全に十分配慮して実施しています）

水稻の施肥方法の一つに、田植え時期に施す基肥と、生育状況に合わせて施す追肥を組み合わせる「分施肥体系」があります。分施肥体系では、水稻が肥料を必要とする時期に施肥するため肥料の効果が高められる一方、夏の暑い時期に肥料を散布する作業が発生します。このため、現在は基肥分と追肥分の肥料を田植え前または田植えと同時に施す「一発施肥体系」が広く利用されています。

追肥作業に使用する農業機械には、背負動力散布機、無人航空機、乗用管理機等があります。しかし、背負動力散布機では肥料の補充に、無人航空機



旋回の様子（測定調査のため複数名乗車していますが、農作業安全に十分配慮して実施しています）

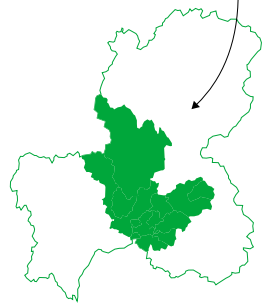
夏秋トマトを次世代へ
新規就農者の育成に力

生産者、関係機関と連携

岐阜県の中央に位置し、5
市8町村からなるJAめぐみ

のは、県土の23%を占めており、
その広さを生かした多種多様な
農作物栽培が行われています。

中でも、郡上市と加茂郡白



郡上トマトの学校で収穫作業する研修生ら



塾長(右)の元でのOJT形式研修

学校やOJT形式で学ぶ

管内北部に位置する郡上地

川町、東白川村では、山間部特有の気候である昼夜の寒暖差を生かした夏秋トマト栽培が盛んです。農家の高齢化などに伴う後継者不足が懸念される中、同JAでは関係機関と連携した新規就農者の育成に力を入れています。

出荷作業を行う
郡上トマトの
学校の研修生



域では、同JAが郡上市や農林事務所、郡上夏秋トマト部会と連携して、2016年に「郡上トマトの学校」を設立しました。修了後に同市で就農することを条件に研修生を募集し、2年間の夏秋トマトの栽培研修を行っています。圃場での実践はもちろん、イベントでの対面販売や部会会議への参加など、関係機関と協力して実践的な農業経営を学ぶカリキュラムを構築しており、これまでに12人が同市で就農しました。

管内東部に位置する美濃白

概要	2026年3月31日 現在
正組合員数	2万6743人
准組合員数	3万4559人
職員数	1084人
販売品取扱高	70億8千万円
購買品取扱高	69億7千万円
貯金残高	6274億9千万円
長期共済保有高	1兆51億8千万円
主な農畜産物	ダイコン、トマト、イチゴ、ナス、サトイモ、飛騨牛

川地域では、行政や商工会、NPO法人などと連携し発足した「美濃白川就農応援会議」のもと、新規就農者の育成と定住人口の確保に向けた取り組みを強化しています。

岐阜県の「あすなる農業塾」

制度を活用した新規就農者育成事業として、「塾長」に任命したベテラン農家の元で、1年程度のOJT形式の夏秋トマト栽培研修を実施。栽培技術の習得のみならず、新規就農者が地域に溶け込める体制を築き、これまでに8人の塾長の元で計10人が卒業し、同地域のトマト農家として就農しました。

このように、地域の一体感を生かした就農支援で、持続可能な産地づくりに貢献しています。

小谷あゆみさんが取材報告

子どもも大人も一緒に みんなでにぎわう憩いの場

生産者と消費者、子どもも大人も一緒になって田んぼに入り、生きものを調べる「田んぼの生きもの調査」。「食」と「農」の大切さや、農業の多面的機能、生物多様性、環境保全に果たす役割を知ってもらい、水田の生態系から稲の成長や農家の仕事への理解を深めてもらおうと、全農が2008年から力を注いでいます。7月に開催された様子を農ジャーナリストの小谷あゆみさんが報告します。

【広報・調査部】



生産者の内藤さんと小谷さん

全農が主催する「田んぼの生きもの調査」親子で楽しむ生きものとの出会い」と題したイベントが7月4日、神奈川県伊勢原市でありました。参加したのは、県内外の親子16組、44人。開会式では、全農広報SR課の青木秀樹課長(当時)が、「全農では2025年度までに約900回、田んぼの生きもの調査を実施し、4万2000人に参加していただきます。今日の田んぼでは、生きものとともに育つ稲や、農家さんについても是



田んぼの生きもの調査を楽しむ親子

非知ってくださいます」とあいさつしました。
会場となったのは、市内の米農家、内藤正行さんの田んぼです。神奈川県県のブランド米「はるみ」を中心に4畝で稲作を営む内藤さんは、十数年前から全農の活動に協力し、夏と秋の2回、イベントの受け入れをしています。
16組の親子が畔に並びました。初めて田んぼに入る子も多く、最初は恐る恐るですが、足を踏み入れた途端、あちこちから歓声が上がります。



農ジャーナリスト・フリーアナウンサー
小谷あゆみさん

石川テレビ放送のアナウンサーを経て現在はフリー。野菜を作るアナウンサー「ベジアナ」として家庭菜園歴は25年。農ジャーナリストとして、都市農村交流や、生産と消費のフェアな関係をテーマに全国で取材、講演、シンポジウムでの司会やコーディネーターなどを行う。日本農業新聞ほかでコラム連載中。農林水産省・世界農業遺産等専門家会議委員のほか、91農業アンバサダーを務める。



やりだすと大人の方が真剣に?!

26種類の生きものの発見 食のリテラシー育む

筆者もズボンをまくり上げて田んぼの中へ。夏の田んぼのぬかるみは普段の生活では味わえないさわやかな心地よさがあります。水面を見ると、すばやく動く2、3ミリの小さな黒い虫が泳いでいます。「いたいた！速い速い」と声を上げると、詳しく

い男の子が「ガムシの仲間〜！」と教えてくれました。

にぎわう田んぼを見て農家の内藤さんは、「田んぼって憩いの場なんだよね。農家も昔はたくさんいてね、3時だからお茶飲もうよって声をかけあつてたんだよ」と話します。生きもののためにもできるだけ自然なものを使いたいと、近隣の畜産農家の堆肥で土づくりをして

います。

30分ほどの採集で集まったのは、イトミミズ、ユスリカ、チビゲンゴロウ、ニホンアマガエル、アメンボ、ハシリグモのほか、空に舞うアカトンボ、ヒバリ、シラサギなど26種類。ホワイトボードに書き出して解説をしたのは、講師の高知県梶原町で循環型農業を営み、農と生きもの研究所を主宰する谷川徹さんと、生きもの調査インストラクターの原覚俊さんです。子どもらにとって大切なのは、希少生物の多寡や、名前の同定よりも、田んぼの生態系を五感で感じ、小さな命の躍動を手にとって体感することにあるようです。そうした経験は忘れられない記憶となり、農業への理解や、食のリテラシーを育みます。

生きものが米をつくる 食べる時に思い出して

参加した子どもたちのアンケートの一部を抜粋します。



熱心に生きものを探す参加者ら

「生きものがいろいろいて楽しかった」「はじめて田んぼにはいつてきもちよかった」「大きいおたまじゃくしと卵を見つけた」「土がぬめっていておもしろかった」「スズゴイタのしかった」。読んでいただけで、こちらまでうれしくなります。また、大人のアンケートでは、「農家の方の思いを直接聞けてよかった。田んぼに目を向けたことで、子どもは他の食べ物がどう作られているか、興味を持ったようです」「日本の農業のためにこうしたイベントは貴重」「生きものが米をつくる

という考えにハッとしました。子どもたちが食べ物を食べる時に思い出してくれると良いと思います」

生きものや人でにぎわう田んぼは、農家はもちろん、農業界全員の喜びでもあります。今日の経験をした子どもたちが大人になる10年後には、田んぼはみんなが集まる憩いの場だと定義されていることを祈らずにはいられません。百聞は一見に如かず。次回は10月に開催する予定だそうです。



田んぼの生きもの調査について説明する講師の谷川さん



捕まえた生きものを確認する参加者と小谷さん

ニッポンエールで 大分県産かぼすPR

オリジナルメニュー
通じ魅力紹介

9月27日まで
キャンペーン!

全農と玉川高島屋S.C.(東神開発株)は、大分県産かぼすを使用した期間限定のオリジナルメニューを提供する「大分かぼすメニューフェア」を、8月26日~9月8日まで、レストラン・食料品参加各店で開催します。【大分県本部・営業開発部】

本フェアでは、爽やかな香りとまろやかな酸味が特長の大分県産かぼすを使用した22種類の限定メニューを玉川高島屋S.C.館内のレストラン・惣菜店舗18店舗で提供するほか、生鮮売場で大分県産かぼすの生果販売を行います。

料理やドリンクに添えるだけで味わいを引き立てるかぼすの魅力を、玉川高島屋S.C.にお越しの皆さまや地域の皆さまに気軽に楽しんでいただける内容となっています。本フェアは「ニッポンエール」の取り組みの一環として開催され、メニューフェアという新たな形での産地の応援につなげます。

全農は、国産農畜産物の消費拡大や生産振興に向けて、今後も「ニッポンエール」の取り組みを全国の産地・品目に拡大していきます。



フェアを通じ
大分かぼすをPR

新潟県産フルーツを食べて にいがた和牛プレゼント

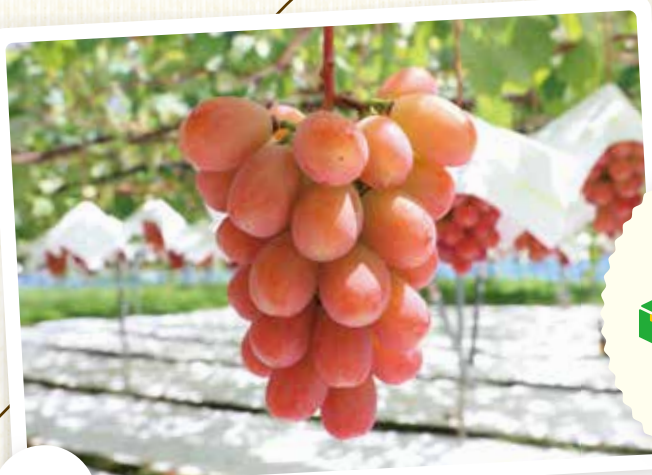
にいがた園芸農産物宣伝会では、新潟県産青果物の安定販売と消費拡大に取り組んでいます。今回は、「新潟県産フルーツで夏を元気に乗り切ろう!」レシート応募キャンペーンを企画しました!

【新潟県本部・園芸部】

新潟県では信濃川や中之口川流域で果樹栽培が盛んで、旬を迎えたおいしいフルーツが続々と登場します。キャンペーンの対象フルーツは、新潟県産のもも・ぶどう・日本なしです。300円(税込)以上ご購入いただき、レシートと商品を撮影して応募すると、抽選で20名に「にいがた和牛(もも)300g」をプレゼントします!旬のおいしい新潟県産フルーツを楽しみながら、ぜひご応募ください。応募期間は9月27日までです。



県産フルーツ消費拡大に向けたキャンペーン



6,500円
(税込み)

フルーツ王国 やまなし

サンシャインレッド 約1kg 2房入り
9月上旬から中旬お届け



JA全農の産地直送
通販サイト

JAタウン
ショップ紹介

「サンシャインレッド」は、「サニードルチェ」と「シャインマスカット」を掛け合わせて誕生した山梨県オリジナルのブドウです。

鮮やかな赤色の美しい見た目と、大粒で食べ応えのある果実が特徴。濃厚でまろやかな甘さに加え、「シャインマスカット」譲りの華やかな香りが楽しめます。酸味が少なく、皮ごとそのまま食べられるため、お子さまから大人まで幅広い世代におすすめです。

15年の歳月をかけて開発された、甘さ・香り・食感・見た目のバランスに優れた注目の新品種です。

(JAタウンはこちらから) <https://www.ja-town.com>
(お問い合わせは) shop@ja-town1.com

ご注文は
こちらから

